

令和8年度学校評価計画

重点目標	担当	現状	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
活気と笑顔のある学校	全教員	真面目で落ち着いた学校であるが、より一層、活気のある学校をめざす。	自発的な挨拶を継続して推奨する。	【生徒調査】	自ら進んで挨拶できていると答えた生徒割合 A：90%以上である。 B：80%以上である。 C：70%以上である。 D：70%未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
			授業（実習含む）や部活動などの日々の教育活動の充実について継続して取り組む。	【生徒調査】	学校生活が充実していると答えた生徒割合 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
安心、安全な学校	生徒指導 全教員	交通事故の報告は少ないが、一般の方から注意を促す連絡がある。 昨年度の調査結果では、安心できる学校である回答した生徒割合が64%であった。	人波作戦などの実施や交通安全について日常的に指導をしていく。	【生徒調査】	交通ルールを遵守していると答えた生徒割合 A：95%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
			今まで以上に生徒の観察を丁寧に行い、自己指導能力を身につけるために、自己肯定感・自己効力感を高める指導をする。	【生徒調査】	安心できる学校と答えた生徒割合 A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
キャリア教育推進	全教員	高校卒業時の進学や就職だけではなく、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進が求められている。	授業はもちろん学校教育全体でキャリア教育を推進するとともに、職業講話、インターンシップ等を実施し、職業観を養う行事を取り入れている。	【生徒調査】	将来の目標に向けて今すべきことが明確になった（明確になってきた）と答えた生徒割合 A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
個に応じた進路指導	進路指導 全教員	近年、進路希望が多様になり、大学の入試形態も複雑になっている。	本人の志望を優先した進路指導を実施。進学指導では学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜すべてに対応し、就職指導では個別指導を充実させる。	【進路結果】	志望校への合格、就職内定が実現した生徒割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に集計する。
				【3年生・生徒調査】	本校の進路指導に対して概ね満足と答えた生徒割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
ICTを活用した教育活動の推進	教育研究 全教員	令和8年度入学生よりタブレット端末が個人購入となった。授業でのICTの活用をより推進していく必要がある。	研修や教員間での情報交換を通して、授業でのICT活用機会を増やしていく。	【教員調査】	教員への、授業でのICT活用調査 A 効果的に活用している B ある程度効果的に活用している C あまり効果的な活用になっていない D 活用していない	A、Bの合計が90%未満で改善を検討する。	2月に調査する。
部活動、生徒会活動の活性化	生徒会 全教員	意欲的に活動をしている生徒が多いが、部活動をしなない生徒が増えつつある。	部活動は希望制であるが、コミュニケーション力や目標達成能力の向上等に繋がり効果が大きい。前向きな取り組みを促していきたい。	【部登録生徒調査】	部活動をして「よかった」又は「充実している」と答えた生徒割合 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
			生徒会行事等において、生徒各自が責任感を持って取り組み、主体性と協働性が高まるような働きかけを行う。	【生徒調査】	生徒会行事に積極的に取り組んだと答えた生徒割合 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。

学校評価2年計画（令和8～9年度 1期）

生徒の自己肯定感・自己有用感について、学期ごとに調査して、分析・評価し、改善を行う。

総合的な探究の時間について、セントレアプロジェクト（1年）、3科連携プロジェクト（2年）を行う。次年度に向けて評価し、改善を行う。